おわりに

一　この本のねらい

みんなの福祉読本「ちきゅうのなかま」は、これまでは県内の全小学校四年生・五年生のみなさんに、学校で、先生といっしょに読んでいただくことを願ってつくられました。しかし、今回は四年生のみなさんに活用していただくことになりました。編集にあたっては、「福祉のまちづくり」の学習に取り組んでいただくために、第一章「くらしを支える福祉社会のしくみを調べてみよう」、第二章「お年よりが安心してくらせるまちづくりを考えよう」、第三章「障害のある人が自分らしくくらせるまちづくりを考えよう」、第四章「ボランティア活動で幸せなまちづくりを考えよう」としました。

「福祉のまちづくり」の学習をとおして、身近な社会福祉の営みについて学習し、また、障害のある人やお年よりを正しく理解し、すべての人を大切な存在として尊び、どんな人とも共に生きていくための思いやりの心、つまり、「福祉の心」をはぐくむとともに、福祉への関心を高めていただくことをねらいとしました。また、福祉のまちづくりに必要な、わたしたちにできるボランティア活動について学習し、幅広い体験活動を行って、「福祉を実践する力」をはぐくんでいただくこともねらいとしました。

二　作品について

みんなの福祉読本「ちきゅうのなかま」は、昭和五十六年の国際障害者年に、障害者の問題を中心に考えて発行されました。その後、お年よりやボランティアについての作品をとり入れて、定期的に内容の一部改訂を行ってきました。

平成十年度に、これまでの福祉読本を全面的に改訂し、これまでに掲載してきました障害のある人や、お年よりの正しい理解、ボランティア活動の理解を内容とする児童・生徒の作品に加え、身近な社会福祉の営みを学ぶ解説文を掲載いたしました。

なお、作品は提供者の意図をそこなわない範囲で、一部手直しして掲載しております。

三　この本の活用のしかた

みんなの福祉読本「ちきゅうのなかま」は、先生と児童のみなさんがいっしょになって読み、特に作品の後にあげている〈みんなで考えよう〉を参考に、それぞれ考え合う手がかりとして、活用していただきたいものです。たとえば、この世の中にはいろいろな人が住んでおり、共に支え合って生きていることに目を向け、共に支え合っていくこと、共に学んでいくことの大切さに気づき、そして、すべての人が社会の大切な存在として喜ばれ、そのためには、「福祉の心」をはぐくむことが大切であることを学ぶために、活用してほしいものです。

また、みなさんが、自ら深い思いやりの心をもって、福祉体験をしたいという気持ちをはぐくむよう、児童会活動や学校の行事などに、福祉体験をとり入れていくきっかけになるよう、活用していただきたいものです。

昭和五十六年に初版本を発行して以来、県内の学校では、さまざまな取り組みを工夫していただき、児童のみなさんの、福祉への理解を深めることにいかされています。今年も、児童のみなさんは、きっと新鮮な気持ちで、この本を活用してくれるものと期待しています。また家庭でも、この本を中心に親と子が話しあえれば、どんなにすばらしいことでしょう。

この本が、学校や家庭で、そして地域の中で広く愛読され、「福祉の心」が読む人の心の中にしだいに広がっていき、社会の福祉への関心も高まり、障害のある人も、家庭や地域で普通の生活ができるような、「心と心がふれあうまち」が実現されることを切に願っております。

推薦（すいせん）のことば

長崎県では、すべての小・中学校で体験活動が実施され、その中のほとんどの学校でボランティア活動などの社会奉仕に関わる取組が進められています。ボランティア活動を行うには、周りの人々の幸せを願う優しい心や人との交わりを大切にし、思いやり助け合う心が必要になります。多くの児童・生徒が自分の生活を見つめ、振り返りながら、だれもが暮らしやすいまちづくりのために、自ら考え、行動している姿を頼もしく思っています。

この、みんなの福祉読本『ちきゅうのなかま』は、心豊かな人間形成と、福祉の心の芽を大切にする教育をめざして発行されており、みなさんからたいへん愛されている本です。

この読本には、お年よりや障害（しょうがい）のある人、ボランティアに関することを正しく理解するための作文や、身近な社会福祉についてのわかりやすい解説（かいせつ）が多数収録（しゅうろく）されています。また、人間の尊（とうと）さ、心のふれあいの大切さなど、福祉に対する関心を高め、理解を深めることができるよう編集（へんしゅう）されています。各学校においては、先生と児童のみなさんが正面から向き合いながら、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図る教育活動の一助として、活用していただくようお願いいたします。

長崎県教育委員会
教育長　渡辺　敏則

作品、イラスト・挿し絵、表紙絵、点字、写真等を提供していただいた方々

一　作品

心
おじいさんに習った竹とんぼ　中村亮太郎（平成十三年度　長与町立長与南小五年）
じいちゃんとばあちゃんの二人三脚　秀島　真琴（福岡県社会福祉協議会提供）
「平成十五年度　心の輪を広げる体験作文集　入賞作品」内閣府編集・発行）（当時小佐々町立楠栖小六年）
ぼくのゆめ　大曲　凌世（平成十三年度　諫早市立真城小四年）
おとなになっても　山下　育子（「平成八年度　心の輪を広げる体験作文集　最優秀賞作品」総理府障害者対策推進本部編集・発行）
一枚の手紙をとおして思ったこと　種村　鈴鹿（平成十四年度　当時宇久町立神浦小五年）
ボランティア　「ちきゅうのなかま」編集委員会

二　イラスト・挿し絵

イラスト　松山新太郎（元長与町立長与北小学校校長）
挿し絵　小川　睦（諫早市社会福祉協議会地域福祉課課長）
池田　敏典（当時長崎市立横尾小学校教諭）
松田　直也（当時壱岐市立筒域小学校教諭）
谷添　詩織（平成二十四年度「子ども県展」絵画部門知事賞　西海市立雪浦小三年）

三　表紙絵

長崎県立諫早東養護学校（当時）

四　写真（順不同）

財団法人長崎県すこやか長寿財団
長崎県共同募金会
長崎市立矢上小学校
長崎市立桜町小学校
長崎市立諏訪小学校
長崎市立桜が丘小学校
長崎市立山里小学校
長崎市立西浦上小学校
長崎市立土井首小学校
長崎市立鳴見台小学校
長崎市立西坂小学校
佐世保市立相浦西小学校
対馬市立塩浦小学校
長与町立長与小学校
長与町立洗切小学校
長崎大学教育学部附属小学校
長崎大学教育学部附属特別支援学校
長崎さるく博06推進委員会事務局
長崎県立鶴南養護学校（当時）
長崎県立長崎養護学校（当時）
佐世保市総合病院　南川佐千代
長崎県立諫早東養護学校（当時）
長崎県立盲学校
長崎市社会福祉協議会
南島原市社会福祉協議会
壱岐市社会福祉協議会
長崎県立点字図書館
長崎市小江原地区老人デイサービスセンター
グループホーム・サンハイツ青山
特別養護老人ホームサンハイツ
身体障害者授産施設常明園
身体障害者通所授産施設ワイドビジョン
恵の丘長崎原爆ホーム
楽書会
長崎県社会福祉協議会福祉人材センター
長崎県福祉保健部障害福祉課
松前病院　盛次義隆
http://www.masaki-hp.com/
地域活動支援センター・フロンティア・ワークス
野口健事務所
通所介護事務所　さんぎょ家
東京ハンディキャップ連絡会
http://www.Tokyo-handicab.net/
知的障害者更生施設サントピア学園
南高愛隣会県央地域サービスセンター「らいふ」
諫早市社会福祉協議会
長崎県ろうあ福祉協議会
ながさきホタルの会
（社）ガールスカウト日本連盟
佐世保エコプラザ
モンサン井手園
フリースペースの会遊歩
長崎電気軌道（株）
平戸文化センター
東彼杵町社会福祉協議会
有限会社杉永蒲鉾
佐世保市地域子ども教室実行委員会
江迎小学校図書ボランティア
小値賀町青少年健全育成会
福江地域子ども教室実行委員会
長崎要約筆記サークルなごみ
長崎県営バス矢上営業所

福祉読本の編集作成に協力された方々・団体

平成二十年度福祉読本編集委員
永富　雅徳（当時長与町立洗切小学校校長）
宮脇　文恵（長崎純心大学准教授）
松坂　眞一（長崎市立山里小学校教諭）
神近　明子（当時長崎市立南長崎小学校教諭）
江越　克郎（当時長崎市立橘小学校教諭）
村井　宏之（当時時津町立時津小学校教諭）
田口　淳二（当時長与町立長与南小学校教諭）
長田　誠（長崎大学教育学部附属小学校教諭）
一瀬　節子（当時県立諫早養護学校教諭）
三岳　美喜（特別養護老人ホームサンハイツ係長）
小森　寛（フリースペースの会遊歩理事長）
森　正（com研究会代表）
小川　睦（諫早市社会福祉協議会地域福祉課長）
島田　直也（大村市社会福祉協議会主査）
櫻井　洋観（西海市社会福祉協議会）
久保　直人（長与町社会福祉協議会地域福祉課長）
宮崎　淳右（元長崎市立山里小学校校長）

平成十九年度までの福祉読本編集委員
俵屋　祥子（当時長崎大学教育学部附属小学校教諭）
松尾　達也（長崎市立西坂小学校教諭）
坂本晋太郎（雲仙市社会福祉協議会瑞穂事務所）
西岡　哲男（当時県立川棚養護学校教諭）
土橋　美咲（当時長崎市立矢上小学校教諭）
佐々木　正（西海市社会福祉協議会事務局次長）
牛嶌　輝彦（当時フリースペースの会遊歩副理事長）
川端　健一（当時長崎市立西城山小学校教諭）
松本　憲治（長崎市立稲佐小学校教諭）
松本　隆男（当時長崎市立小ヶ倉小学校教諭）
山田　喜孝（日本国語教育学会理事）

平成十八年度までの福祉読本編集委員
浦上　康彦（当時長崎市立小江原小学校校長）
松井喜八郎（雲仙市社会福祉協議会国見事務所事務長）
上村　智（当時長界市立土井首小学校教諭）
池田　敏典（当時長崎市立横尾小学校教諭）
上久木田雄二（当時長崎市立畝刈小学校教諭）
細田理恵子（県立鶴南養護学校教諭）
草野恵味子（当時長崎市立山里小学校教諭）
木村麻季子（佐世保市ボランティアセンターボランティアコーディネーター）
野濱　玲子（特別養護老人ホームサンハイツ副施設長）
徳並さえ子（当時長崎市立山里小学校教諭）
小山　義彰（当時長崎大学教育学部附属小学校教諭）
野村紀代子（当時聖マリア学院小学校教諭）
川口　邦春（当時長崎市立南陽小学校教諭）
隈部　徹（当時グループホーム庄司屋敷次長）
宮原　邦宏（当時長崎市立長崎小学校校長）
春木　瑞恵（当時長崎大学教育学部附属養護学校教頭）
安部　和隆（当時長崎街区教育学部附属小学校教諭）
深堀　邦哉（当時長崎市立横尾小学校教頭）
木村　国広（当時高島町立高島小学校教頭）
野本美和子（当時長崎市立桜町小学校教頭）
鴛屋美恵子（当時長崎市立朝日小学校教頭）
丹野　平三（当時長崎大学教育学部附属小学校教諭）
清水　哲也（当時長崎市立南長崎小学校教諭）
松坂　眞一（当時長崎市立西浦上小学校教諭）
近藤　功（当時三和町立三和中学校教諭）
山崎　直人（当時長崎市立三重小学校教諭）
田川　雄一（当時長崎市立稲佐小学校教諭）
松田　行雄（当時長崎市立朝日小学校校長）
徳永　俊三（当時長崎市立南長崎小学校教諭）
満留　敦子（当時長崎市立城山小学校教諭）
橋本　淳（当時長崎大学教育学部附属小学校教諭）
下川めぐみ（当時長崎市立桜が丘小学校教諭）
松尾みどり（当時長崎市立女の都小学校教諭）
今道　真名（当時長崎市立鳴見台小学校教諭）
原　英幸（当時琴海町社会福祉協議会福祉活動専門員）
井上　洋子（グループホームサンハイツ青山）
吉岡　健仁（知的障害者更生施設サントピア学園園長）
竹馬　一（当時小浜町ショップモビリティ情報センターぽかぽか理事）
一瀬　兼（当時長崎市立滑石小学校校長）
田中丸裕司（当時長崎市立伊良林小学校教諭）
高尾　貴子（当時長崎市立西浦上小学校教諭）
田中　昭二（当時長崎大学教育学部附属養護学校教諭）
大槻　麻子（当時長崎市立日見小学校教諭）
氏原　巧（当時加津佐町社会福祉協議会福祉活動専門員）
吉浦　亜矢（東彼杵町社会福祉協議会福祉活動専門員）
矢口あけみ（サンハイツ銭座事業所所長）
川口　康孝（知的障害者通所授産施設「ワークあじさい」施設長）
長崎県教育庁
長崎県福祉保健部
長崎県社会福祉協議会

ちきゅうのなかま

昭和５６年　初版発行
昭和５９年　一部改訂
昭和６２年　　〃
平成　３年　　〃
平成　７年　　〃
平成　８年　　〃
平成１０年　全面改訂
平成１１年　一部改訂
平成１２年　　〃
平成１３年　　〃
平成１４年　　〃
平成１５年　　〃
平成１７年　　〃
平成１８年　　〃
平成１９年　　〃
平成２０年　　〃
平成２１年　　〃
平成２２年　　〃
平成２３年　　〃
平成２４年　　〃
平成２５年３月３１日発行

発行者　長　崎　県
〒８５０－８５７０　長崎市江戸町２－１３
（電話）０９５－８２４－１１１１（福祉保健課）

印　刷　川口印刷株式会社

＊イラスト等の無断複写を禁ず